



『おうちゴルフで劇的スコアアップ』付録

ゴルフ用語集 初級編

はじめてゴルフをされる方のために
初級のゴルフ用語をまとめてみました。
参考にしてください

※参考「GEAR」

『おうちゴルフで劇的スコアアップ』の著者・森本貴義氏が所属する株式会社リーチ（本社・京都府）がつくったゴルフの総合コーチングプログラム。これまで100名以上のプロのゴルフコーチやゴルフトレーナーを生み出している。“REACH Golf Exercise Analyst”の略で、「スイングをカラダから考える」をコンセプトに、ゴルフスイングの分析やそれに対するエクササイズ方法、コンディショニングの方法まで、あらゆる角度からゴルフ指導を行っている。

くわしくは、<http://www.reach4d.jp/LEX/gear.html> を参照。



はじめに

ゴルフの歴史

ゴルフの起源は、スコットランドを筆頭に、オランダ、中国など世界各地に発祥説があり、定説はないとされている。先の曲がったスティックで羽毛を包んだボールを打つ遊びや、ウサギの穴に石ころを打って入れる遊びなどが、ゴルフの起源になったと言われている

■ St.Andrews (セントアンドルース)

スコットランドにある町で、ゴルフ発祥の地として知られ「ゴルフの聖地」と呼ばれている。1552年に作られた世界で最も古いコースとされている。このコースは「あるがまま」を理念としており、世界で唯一“神と自然が作り給うたコース”と呼ばれている

ストロークプレイ

ゴルフはストロークプレイかマッチプレイのいずれかで競う。ストロークプレイとは、全ホールの打数の総計で競う方法。基本的にはアマチュアゴルファーは、ほぼこの方式でプレイする

マッチプレイ

2人1組でコースを回り、ホールごとの打数で勝負をつける方法

ハンディキャップ

実力差があるプレイヤーと一緒にプレイする時に差を埋めるために設けられた制度。最終的なスコアからハンディキャップを引くことで、実力差があっても競えるようになる。最多のハンディは36とされ、10以下を「シングルプレイヤー」と呼ぶ





1、コースについて

コースは 18ホール	ゴルフコースはクラブハウスからスタートして前半1～9ホール（アウト）と、後半10～18ホール（イン）の18ホールからなる。 規定打数によってミドルホール、ロングホール、ショートホールの3つにわかれ、全ホールを平均で4打で回ると、スコアは「72」となる。コース全体を歩くとおよそ7～8キロあるとされる
ミドルホール	規定打数が4打に設定された最も一般的なホール。18ホール中、10ホール前後がミドルホールになっている
ロングホール	規定打数が5打に設定された距離が長めのホール。18ホール中、4ホール前後がロングホールとなる。距離の目安は男子で471ヤード以上、女子では401ヤード以上とされる
ショートホール	規定打数が3打に設定された距離が短めのホール。18ホール中、4ホール前後がショートホールになる。距離の目安は男子が250ヤード以下、女子は210ヤード以下とされる
パー○	すべてのホールに規定打数が決められていて、その打数でカップイン（ホールイン）した場合パープレイ（±0）という。それより少ない場合はアンダー・パー（-○）、多い場合はオーバー・パー（+○）という。 ほぼすべてのコースがパー70～72ほどで設定されている（72が最も一般的）
パー	ちょうど規定打数でカップイン（ホールイン）すること。 パー3、パー4、パー5の3つがある
パーディ	規定打数より1打少なくカップイン（ホールイン）すること（小鳥）
ボギー	規定打数より1打多くカップイン（ホールイン）すること（化け物）

イーグル	規定打数より2打少なくカップイン（ホールイン）すること（鷲）
ダブルボギー	規定打数より2打多くカップイン（ホールイン）すること
アルバトロス	規定打数より3打少なくカップイン（ホールイン）すること。アメリカでは「ダブルイーグル」ともいう。まずないが、4打少なくカップインすることは「コンドル／ダブルアルバトロス」という
トリプルボギー	規定打数より3打多くカップイン（ホールイン）すること（例：パー3のホールを6打で上がったとき）。ちなみに4打多く打った時は「クアドラブルボギー」、規定打数の倍打ったときは「ダブルパー」という
ヤード	ゴルフの距離の単位。ほぼすべてのゴルフ場でヤードを使う。1ヤードは0.9144メートルで、約90センチ。おおまかに長身の人の人の一歩の歩幅に近くなる
ホール（カップ）	ホールごとに最終的にボールを入れる穴（ホール）のこと。カップともいう。4.25インチ（108mm）と決められている。また深さは4.0インチ（101.6mm）以上と決められている。穴を開けたり、埋めたり、日によって各ホールのホールの位置は管理者によって変えられている。ちなみに「ホールアウト」はカップにボールを入れてそのホールを終える（上がる）ことを意味する
ティー・グラウンド ／ティーイング・グラウンド （ティー・ボックス）	各ホールの最初に打ち出す場所のことをいう。ここから打ち出すショットをティーショット（ティーオフ）といい、平らにならされていて、多くのコースで打ち出しのライン（そこより後ろから打たなければいけない）を示す目印がある。 また、通常ハンディーによってホールの距離を調整するバックティー／フロントティー／レディースティーという3つのティー・グラウンドが設けられている

フェアウェイ	<p>芝が短く刈り込まれた、グリーンまで伸びるコースの中央部分。 最もボールを打ち出しやすく、まずティーショットでは、このフェアウェイに飛ばすことを目指す。 フェアウェイの芝の長さはコースによって違うが、15mm程度が最も多いといわれる</p>
ショートカット	<p>フェアウェイとラフとの間にある、やや芝が長めの部分。 ボールが転がりにくくなる。中難度</p>
ラフ	<p>フェアウェイの周囲を囲む、芝が長めのラフ(荒れた)な部分。 傾斜がついていることが多く、また、クラブヘッドが芝に絡むなどするため、ここからのショットは高難度となる</p>
グリーン	<p>芝がもっとも短く刈り込まれた、ホール(カップ)を取り囲む部分。 グリーン上では基本的にパター以外のクラブで打つことはできない。またボールを試しに転がすと2打罰となる。 芝の長さは3mm~4.5mmと言われる</p>
ピンフラッグ	<p>ピン(ホール)の位置を示す旗のこと。 ホールの中央に挿して立てられ、コース上でプレイヤーの目標となる。試合中、以前はグリーン上でパッティングする際は、抜いてから打つように決められていたが、近年のルール改正で、打つ前に選手が抜くか抜かないか選べるようになった</p>
ホールインワン/ チップイン	<p>ティーショット(第1打)が、直接カップインすることをホールインワンという。また、グリーン外から打ったアプローチショットが直接カップインすることをチップインという</p>



バンカー	<p>コースの所々に設けられた、砂地。ハザードのひとつ。ボールが地面に沈み込むなど、ショットするのが難しい。このバンカーから打ちやすいのがサンドウェッジで、砂地でもクラブが抜けやすいように、ソールが大きく、ロフト角（フェイス面の傾斜）がかなりあって、ボールが上にあがりやすく設計されている。バンカーを含むハザードからボールを打つ時は打つ前にクラブを地面につけるとペナルティー（2打罰）がある。また葉や小石を取り除くこともペナルティー（2打罰）の対象となるので注意</p>
OB	<p>アウトオブバウンズの略。コースの外側を意味し、境界が白い杭で示される。境界外にボールが出た場合は、ボールが見えていてもプレイすることはできない。1打ペナルティを受けて、規定の場所から打ち直す（ホールやコースによって打ち直しの場所は異なる）</p>
アンプレヤブル／ロストボール	<p>木やブッシュなど自然の障害物のせいでボールが打てない場合、「アンプレヤブル」を宣言し、1打罰を受けて2クラブレングス（2クラブ分の長さの距離・ホールに近づかない位置）内の位置にボールをドロップして打つことができる。またボールを見失ってしまった場合は「ロストボール」といい1打前の位置から1打ペナルティーで打ち直しになる</p>
ウォーター・ハザード／ラテラルウォーターハザード	<p>コースの所々に設けられた池や川、運河など、入ると次のショットが打てない場所のこと。黄色／赤色の杭などで境界が示され、その中に入ってしまった場合、1打ペナルティーで外から打ち直すことができる。黄色い杭と赤い杭で、次の一打をどこに置くかの選択肢が変わる（ボールが線を越えて進入した地点から2クラブ分の長さの範囲内から打ち直しなど）。ただし、ボールが落ちた場所が浅瀬で打つことが可能であれば、ペナルティーなしで打つこともできる</p>
グリーン・オン	<p>グリーン上にボールを乗せることを「オン（グリーン・オン）する」という。また、規定打数で入れられる可能性が高い、パーより「2打少ない」打数でのオンのことを「パー・オン」と呼ぶ</p>
ライン	<p>グリーン上では、よく「ラインを読む」という言葉を使う。パッティングのあと、カップインまでにボールが転がる線を「ライン」と呼ぶ。傾斜、芝種、芝目、風向きなどが影響するとされる。パッティングの強さ、回転、季節、日時によっても変わる繊細なもの。</p>

芝目（芝種）

日本のコースでは、主に「ペント芝」「高麗芝」がよく使われる。それぞれ育ちやすい気候が違い、コースの立地条件などによって使い分けられることが多い。芝によって、硬さ、柔らかさ、葉の密度などが異なり「速いグリーン」「遅いグリーン」が分かれる。また、「芝目」といわれる芝が生え育つ方向（風向きや日の当たる方向などによるとされる）によって、転がり方が違い、「ライン」に影響をおよぼすとされる。一般的に「ペント芝」は葉が柔らかめで転がりやすく、芝目がの影響が弱く、「高麗芝」は葉が硬めで転がりづらく、芝目の影響が強いとされる

ライ

ゴルフボールがある場所の状態を指す。「ライがいい」というとボールが打ちやすい場所にあることを意味し、「ライが悪い」と芝のなかにボールが沈んでしまうなど、ボールが打ちにくい状況にあることを指す。同じラフに入ったボールでも「ライ」によって次のショットの難易度は大きく異なる





2、クラブ（用具）について

ウッド	<p>もともとは、木の素材でできていた、ヘッドの大きな、遠くへ飛ばすためのクラブ。 最近ではチタン合金製が主流。反発力が強くロフト角が小さいため、遠くへ飛ばすようにできている。1W（1番 wood）のことを特に「ドライバー」と呼び、3Wは「スプーン」と呼ぶことがある。およそ5Wまでである</p>
アイアン	<p>金属製の平たいヘッドがついたクラブ。ロフト角（フェイス面の傾斜）の大きいウェッジもアイアンの一種だが、一般には区別して9番アイアンから3番アイアンまでの7本くらいを指すことが多い。特に5番～3番くらいまでをロングアイアン、6番から9番くらいまでをショートアイアンという</p>
ウェッジ	<p>ボールをカップに寄せる（アプローチする）ために最適なクラブ、ロフト角（フェイス面の傾斜）が大きいので、高くボールが上がり、スピンもかけやすくなっている。 特にバンカーから打ち出すためのウェッジをサンドウェッジ（Sw）という。そのほかに、ピッチングウェッジ（Pw）、アプローチウェッジ（Aw）などがある</p>
パター	<p>グリーン上で、ボールを転がしカップインするためのクラブ。クラブのなかで、唯一四角いグリップでも許される。 最近はストロークが安定しやすいため、ヘッドが大きくて平らな「マレットタイプ」のパターが増えている</p>
ユーティリティー	<p>近年開発された、アイアンとウッドの間くらいに位置するクラブ。クラブヘッドが軽くて大きいので、ボールに当てやすい。またクラブヘッドの芯の範囲も大きく、反発力が高いため、よく飛び、また曲がりにくいといわれる。ロングアイアンなどで遠くへ飛ばしたい時に、代わりにユーティリティーを使う人が増えている</p>
シャフト	<p>クラブのヘッドとグリップをつなぐ柄の部分のこと。スチール（鉄）製とカーボン製のものがある。 使う人の身長やクラブの種類によって適切な長さが異なる。またシャフトの硬さによって弾道の高さや方向性が変わるといわれ、シャフトの硬さを表す「シャフトフレックス」という数値がクラブについているものもある</p>

クラブヘッド	ボールを打ち出すための部分。クラブヘッドには以下のような部位がある
フェイス	クラブヘッドのなかで、ボールと当たる平な面の部分
ソール	クラブヘッドの下部。地面と触れる部分
ヒール/トゥ	クラブヘッドのシャフト側（身体側）をヒールといい、反対側の一番突き出た部分をトゥという。カカトとつま先の意味
ロフト角	クラブのフェイス面が地面に対して開いた角度。角度が大きいほど、ボールは上に飛んでいくため、飛距離は出なくなる。ドライバーなど名称が同じクラブでもロフト角の異なるものがある

クラブヘッド（アイアン）の部位の呼び方



<p>バジル／ロール</p>	<p>ウッドのクラブフェイスはまっ平なわけではなく、ほんのわずかに中央部が高い曲面になっている。その水平方向の曲面（角度）をバジル、その垂直方向の曲面をロールと呼ぶ。その曲面の効果によって、中心をずれてボールに当たった時に逆方向にスピニングがかかり、ボールの曲がりを抑えることができる（「バジル・ロール効果」）</p>
<p>ライ角</p>	<p>クラブのシャフトとクラブヘッドのつながる角度。大きなクラブから小さなクラブになるほど、わずかずつ直角に近づいていく（3アイアンで60度～Pwで63.5度くらい）。構えた時（アドレス時）小さいクラブになるほど、ボールと近くなり、その分シャフトは垂直に近く立った状態になる。どのクラブでも、クラブヘッドと地面がほぼ平行になるように設計されている</p>
<p>ボール</p>	<p>ゴルフボールには丸いくぼみがあるのが特徴。通常300のくぼみがある。くぼみがないと、倍も飛距離が違ってしまうといわれている。表面の素材は、ウレタンとサーリンの2種類がほとんど</p>



ゴルフバックに入れて
コースに持ち込めるクラブは
14本までと決められている



3、スイングについて

マーク	<p>グリーン上ではマークをすれば土や泥を除くためボールをピックアップし拭くことができる。また、カップから遠い人から先に打つため、ほかの人のライン上にかかり、ボールが邪魔になることがあるので、ボールの代わりに目印として平らなマークを置く。特別な製品ではなく外国の硬貨などをマークにする人もいるが、はじめてコースに出る際、忘れることが多いのでご注意を</p>
ティー・アップ	<p>ティー・ショット（各ホールの第1打）のときにだけ、ボールを小さな台に乗せて、地面から浮かせて打つことが許される。ティーアップのための木製やプラスチック製の台がある。乗せずに打っても構わない</p>
スパイク（シューズ）	<p>スパイクというと、靴底に突起物のつきたいかめしいシューズを思い浮かべる方も多いかもしれない。最近のゴルフシューズは特に突起物がないものも多い。特にグリーンの芝を痛めてしまうため、逆に突起物付きのシューズはお断りなんて場合も。しっかり、芝をグリップ（掴む）してスイングしたときに安定するもの。また靴底はある程度硬く（ジョギングシューズのような柔らかいものはダメ）重心のコントロールがしやすいものを選ぶのがおすすめ。見た目にも普通のカジュアルシューズと変わらないファッションナブルなものもある</p>
グローブ	<p>グリップする手を保護するため、また、摩擦によって、よりグリップを固定しやすくするためつける。主に天然皮革製と合成皮革製がある。何種類か試して自分のフィーリングに合うものを選んで使ったほうがよい。皮革は使ううちに伸びるので、はじめはやや小さめのものを選んだほうがよい。また両手につけるとよりグリップ力が増し、手の保護にもなるので、女性では両手につける人もいる</p>
アドレス	<p>ボールを打つ前に静止し構える状態。「打つ前の準備」ともいえ、打ち出しの方向を見定め、目標への距離、スイングの強さ、身体の方角、動き出しのタイミングなどを整えていく。ゴルフは他のスポーツにはないほど、「構え」で完全に一時静止した状態になる</p>

アライメント	<p>身体の各部位の位置、総じて「姿勢」を表す。ゴルフは特に構える場所が急傾斜であったり、砂など不安定な場所であったり、林やブッシュの間の狭い場所だったりするので、各部位の骨と骨との位置関係がゆがみ、重心やバランスが大きく変わる。足が地面との接地の仕方がどのような状況であれ、大切な骨と骨との位置関係（姿勢）を整え、バランスをいかに取れるかがスイングに影響を大きく与える</p>
スタンス	<p>構えた時の両足の間の幅。通常、肩幅よりやや広めに取りることが多い。スタンスが広いほど安定しやすいといえるが、広すぎると身体の軸が回転しづらく、スムーズなスイングを阻害する</p>
スライス（フェード）	<p>打ち出し方向を向いて右側にボールが曲がっていくことをいう（バターでも同様・左利きの場合は逆）</p>
フック（ドロー）	<p>打ち出し方向を向いて左側にボールが曲がっていくことをいう（バターでも同様・左利きの場合は逆）</p>
トップする	<p>ボールの置かれた位置より先（左側）をスイングして、ボールの上側（トップ）を叩くこと。ボールが高く上がらず、水平に近い角度で飛んでいったり、時には地面に向かって下向きに飛んでしまう</p>
ダフる	<p>ボールの手前の地面を先に叩いてしまい、ボールに正確に力が伝わらないこと。結果としてボールに当たる前にクラブヘッドが回転して、方向も狂うことが多い</p>
ヘッドスピード	<p>スイングした時のヘッドの速度。プロで48～56MPS (meters per second=メートル/秒)、42～47MPSで力のある男性、38～41MPSで一般的男性、33～37MPSで一般的な女性といわれる。このヘッドスピードと飛距離は、ほぼ比例するとされる。ゴルフショップで計測してくれるところもある</p>
バックスイング	<p>スイングの初動からトップまでの振り上げの動作。頭を中心に円を描くようにクラブヘッドが持ち上がる</p>

ダウンスイング	トップからインパクトまでの振り下ろしの動作
ハーフスイング	50%（時計の3時から9時＝180度）程度の振り幅のスイング
スリークォーター スイング	70～80%程度の振り幅のスイング
フルスイング	100%の振り幅のスイング
テイクバック	スイングの初動。クラブヘッドをまっすぐ後ろに引くように動かす
ハーフウェイバック	時計の針の9時のあたりまでクラブが持ち上がった状態

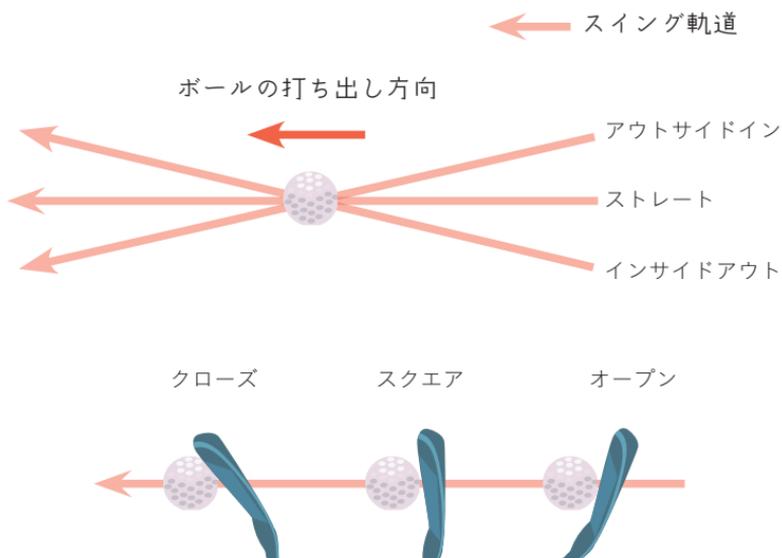


スリークォーター トップ	時計の針の10時～11時あたりまでクラブが持ち上がった状態
トップ	一番高い位置までクラブが持ち上がった状態
切り返し	トップからダウンスイングへの始動動作
ハーフウェイダウン	時計の針の9時のあたりまでクラブを振り下ろした状態
インパクト	クラブがボールをとらえる瞬間
フォロースルー	打ち出されたボールを追うようにクラブを動かしている状態
スリークォーター フィニッシュ	クラブヘッドが時計の針の2時方向程度にまで持ち上がった状態

スイングポジションの画像つき解説は、『おうちゴルフで劇的スコアアップ』本書内30～31ページで詳しく行っています。そちらをご覧ください



フィニッシュ	スイングが完了し、打ち出したボールを見送る状態
アウトサイドイン	スイングの際、クラブヘッドが身体より遠い側から近い側へ、斜めの軌道をとること。ボールにスライス回転がかかり、打ち出し方向から右側へ切れていくボールになることが多い
インサイドアウト	スイングの際、クラブヘッドが身体より近い側から遠い側へ、斜めの軌道をとること。ボールにフック回転がかかり、打ち出し方向から左側へ切れていくボールになることが多い
スクエア	インパクトの際、クラブフェイスが打ち出し方向にまっすぐ（クラブフェイスに垂直）にあたる状態
オープン	インパクトの際、クラブフェイスが打ち出し方向から右に開いた状態のこと。スイング軌道がまっすぐの場合、ボールはスライスで飛んで行くことが多い



クローズ	インパクトの際、クラブフェイスが打ち出し方向から左に閉じた状態のこと。スイング軌道がまっすぐの場合、ボールはフックして飛んで行くことが多い
スイングプレーン	クラブヘッドのスイング軌道を身体の軸を中心に面で表したものの。この面がキレイに平らで安定した方が、いいスイングになると唱える理論がある
スウェー	スイングの際に身体の軸（中心部）が左右・上下に動いてしまうこと。スイング中の体重移動を意識するあまり回転軸がブレて、ボールがまっすぐに飛ばない原因のひとつになる
ヘッドアップ	スイング中に打ち出し方向に顔を上げてしまうこと。ボールの行方を気にするあまり、インパクトの前にボールを見ようとすることが原因として考えられる。必ずボールをとらえてから、身体の回転に自然についてくるように頭も回転させるよう意識すると改善される



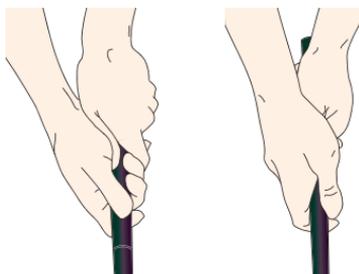
<p>フォワードプレス</p>	<p>スイングをはじめるきっかけとなる動作。静止した状態から動き出す時に決め事をしておかないと、タイミングがずれ、スイング全体が崩れてしまうことがある。人それぞれだが、手首を軽く動かしたり、首を傾けたり、足をほんの少し動かしたりなど、スタートの合図を決めておくことでスイング全体がスムーズになるといわれる</p>
<p>ワググル</p>	<p>グリップに力が入りすぎて手首の可動性が低くなると、正確にスイングできなくなる可能性が高い。手首の力を抜いて揺らしたり、身体が固まらないように足を揺らす動作などをさす</p>
<p>アプローチ (ショット)</p>	<p>一般にピンから100ヤード以内の、ホール(カップ)に寄せる(近づける)ためのショットをアプローチショットという。略して「アプローチ」とも。距離を合わせるため、微かなスイングコントロールが必要。90や80までスコアアップ目指すときもっとも大切になるショット</p>
<p>S字のアドレス* (S-posture)</p>	<p>アドレスの際に腰をそりすぎて背骨が「S」の字を描くように湾曲した構え。腰痛の原因となる</p>
<p>リバースド・ スパイン・アングル*</p>	<p>スイングがトップの時点に来た時、上体の回転の軸が打ち出し方向側に倒れ、屈曲したような姿勢になること。これも腰に負担をかけ腰痛の原因になる</p>
<p>アーリー・ エクステンション*</p>	<p>スイングのインパクトの際、上体が早く起き上がり、全身が伸び上がる。骨盤が前に出るため、腰に負担がかかる</p>
<p>Cフィニッシュ* (C-finish)</p>	<p>スイングが完了したフィニッシュの際に、クラブが垂直方向に持ち上がりすぎて、身体を中心軸が反って、Cの字を描くような状態。すくい上げるようなスイングになっていたり、オーバースイング気味で余った勢いを吸収するためにこのような形になることが多い。これも腰に負担がかかるフォームなので要注意</p>

* 4つの動きについては、『おうちゴルフで劇的スコアアップ』本書内106～113ページで詳しく解説しています。そちらをご覧ください



4、グリップについて

オーバーラッピング・グリップ	もっとも一般的なグリップの形。右手の人差し指を、左手の小指で包むように絡め、グリップが動かないように固定する握り方
テンフィンガー・グリップ	両手を重ねず、野球のように連ねる握り方。10本の指のすべてをクラブと接触させるためテンフィンガー・グリップと呼ばれる。プロにもこの握り方をする人はいるが、非常に稀れ。グリップが動きやすいため、特にはじめたばかりの方にはおすすしめない握り方
インターロッキング・グリップ	右手の人差し指と左手の小指をクロスさせ絡める握り方。力の弱い人でもグリップが動きづらく特に女性におすすめの握り方
ストロング・グリップ	両手を絞り込むようにして両親指が深く重なり合うようなグリップの強さ。フック系のボールが出やすいとされる
ニュートラル・グリップ	ナチュラルな強さで、両親指が同じ位置くらいで重なり合うグリップの強さ
ウィーク・グリップ	弱目の強さで、右手を横から添える程度の力で握る。正面から見た時左手の親指も見えるくらいの握り方。スライス系のボールが出やすいとされる



もっとも一般的な「オーバーラッピング・グリップ」のウィーク・グリップ（左）とニュートラル・グリップ



そのほか

JGTO / JPGA / JLPGA

JGTO（日本ゴルフツアー機構）は日本の男性プロゴルフトーナメントの主催団体。会長は青木功氏（2021年3月現在）。女性はJLPGA（日本女子プロゴルフ協会）で、会長は小林浩美氏（2021年3月現在）が務める。

プロゴルファーの資格にはトーナメントプロとティーチングプロの2つあり、その認定はJPGA（日本プロゴルフ協会）が行っている。

現在、国内男子ツアーに出るためにはQT（クオリファイングトーナメント）と呼ばれる予選会があり（JGTO主催）、それをすべてクリアした選手が男子ツアーに出場する権利を得る。

その予選会出場の資格を得るには、高校または大学のゴルフ部に籍経験者、日本ゴルフ協会ハンディキャップ3.0以内の者などとされている。

日本には現在4000～5000名ほどのプロ（ティーチングプロも含む）がいるとされるが、その最高峰の舞台であるツアートーナメントに出られる選手は一握りである。

さらに、その限られた出場選手の間で、無条件に翌年のツアー出場権（シード）を得られる上位90名ほどの狭き門が毎年争われている

ディボット

フェアウェイからアイアンでショットをした際にできる、地面をえぐったような跡。打った本人がその場で土などを入れ補修するのがマナーとされる

ピッチマーク

ダイレクトでボールがグリーンにバウンドした時、その衝撃でグリーンにぼっこり凹みができることがある。その凹みのことを指す。パターのラインにも影響を与えるため、くぼみを作った本人がくぼみを均すのがマナー（「グリーンフォーク」というツメが2つついた道具で、芝を中心に寄せるようにして凹みの外側から差し、最後にパターで上から抑えてならす）



『おうちゴルフで劇的スコアアップ』付録

ゴルフ用語集 初級編

2021年3月22日 初版発行

発行者

古正 佳緒里

発行所

InteLingo 株式会社

〒113-0024 東京都文京区西片 1-19-1

電話 03-3830-5577

ウェブサイト <https://intelingo.co.jp/>



InteLingo

本書の内容に関するお問い合わせは、上記ウェブサイトまたは郵便でお受けします。

© InteLingo 2021 Printed in Japan